

## 審判員の心得について

ジャッジに関するトラブルのほとんどは、審判のコールの声が小さいことに起因しています。自信を持って、観客にも聞こえるよう大きな声、明確な動作で行いましょう。

○審判としてふさわしい服装を心がけましょう。タオルを首に巻いたり、手や肩にかけたり、腕を組んだりしないようにしましょう。

○よそ見をしたり私語をしたりしないようにしましょう。

○審判は、試合中、コート上で起きるすべての事実問題に責任を持たなければなりません。

○選手やチームに対し、公正・公平な態度で接し行動しましょう。

○インプレー中のコールは、プレーを止めるためのものです。したがって、自動的にプレーが止まるネットミスはコールしません。また、「イン」などのコールはしません。

○ボールの接地部分がわずかでもラインにかかっているならばすべてインなので、ライン際のきわどいボールは特に注意しなければなりません。また、コールがない場合には、すべてインなので、アウトやフォルトは直ちに大きな声で行いましょう。

○ミスジャッジをしないように心がけることが最も重要ですが、明らかな間違いに気づいたときは、直ちに訂正しなければなりません。ただし、これは審判自身の判断によるもので、たとえ、判定に間違いがあっても、プレーヤーの抗議や訴えによってオーバーールしてはなりません。

○訂正（コレクション）は、直ちに行わなければなりません。例えば、アウトボールをコールせずにそのまま打たせ、さらに相手選手が打ってから前の「アウト」をコールするようなことがあってはなりません。

○主審と副審の任務をよく理解し、動作やアイコンタクトで連携を密にしましょう。

○主審と副審の判断が異なった場合でも、主審の判断が優先します。

○何等かの理由で確実な判断ができない場合は「レット」とします。

○プレー中に妨害があった場合、選手がプレーを中断することはできませんので、プレーに支障が全くない場合はそのままプレーを続行させますが、明らかに危険があると判断

した場合は、速やかに主審がレットをコールしプレーを中断させなければなりません。